



## □□ 普通科「探究活動」スタート □□

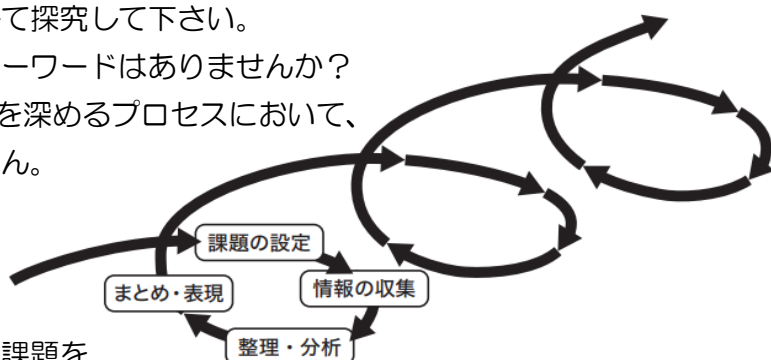
10月31日、今年度の「探究活動」がスタートしました。

今年度からは、自分たちでテーマを設定して、探究活動に取り組みます。

### 【今後の探究活動の流れ】

#### □定期考査前まで・・・グループ編成とグループの探究テーマの設定

- ・各自の探究テーマをもとに、グループを編成して下さい。
- ・探究活動は、右図のプロセスを繰り返すものです。課題（テーマ）を設定するためには、情報を収集し、整理・分析して議論する過程が不可欠です。
- ・基本的には、グループで1つのテーマを設定して探究して下さい。  
それぞれで作成したマインドマップに共通のキーワードはありませんか？
- ・1つにまとまらない場合は、それぞれのテーマを深めるプロセスにおいて、共通する新たな課題が発見されるかもしれません。  
グループごとに建設的な議論を進めて下さい。



#### □授業時間の取組について

##### ・授業時間は、主に議論の場。

それぞれが、授業時間までに情報収集を行い、課題を

もって、総合的な探究の時間の授業に臨んで下さい。授業が始まってから、「今日、何する？」は、NGです。授業時間は、その成果を共有し、議論する場として下さい。授業時間の後半は、次の授業までに各自が探究すべき内容の役割分担を行って下さい。

#### □中間発表とSSH成果発表会について

##### ・中間発表（領域ごとに実施）

発表内容・・・探究テーマを設定したプロセス（テーマの背景と設定理由）と今後の探究計画

##### ・SSH成果発表会・・・領域内でセクションを行い、代表グループが成果発表会で発表します。

### 【探究学習の流れ】

| 日 付    | 回数 | 取組内容（目安）                    |
|--------|----|-----------------------------|
| 10月31日 | ①  | 領域内でグループ編成                  |
| 11月7日  | ②  | グループによる探究テーマの再設定            |
| 11月28日 | ③  | 探究活動の開始                     |
| 12月5日  | ④  | 中間発表の準備                     |
| 12月12日 | ⑤  | 中間発表（探究計画の発表）               |
| 12月19日 | ⑥  | 冬休み中の探究計画（探究内容の確認、役割分担等）    |
| 1月16日  | ⑦  | 冬休み中の取組の共有                  |
| 1月23日  | ⑧⑨ | 領域内セクションの準備                 |
| 1月28日  | —  | SSH講演会「内容未定」（1年生のみ）         |
| 1月30日  | ⑩⑪ | 領域内セクション 代表グループの選出（3グループ前後） |
| 2月20日  | ⑫  | SSH成果発表会の準備                 |
| 2月22日  | 4h | SSH成果発表（土曜授業 1～4校時）         |
| 2月27日  | —  | 探究活動のまとめ                    |

## □□ 研究で大切なことは、「やわらかい発想」と「執着心」 □□

2019年ノーベル化学賞 吉野 彰 氏 「リチウムイオン電池開発」

- 自分たちのテーマで探究しよう → 執着心
- 他者と協力して探究しよう → 柔らかい発想
  - ・自分の考えを他者に発信する。
  - ・他者の意見を傾聴する。受容する。
  - ・他者の意見や考えをもとに、自分の考えを再構成する。
  - ・新たな気づきや発想を共有する。
  - ・協働して課題解決に取り組む。

【吉野先生 受賞インタビューより】

「こういう研究を成功させる1つの秘けつといいますか。1つは粘り強さですね。これは絶対必要だと思います。いわゆる、壁にぶつかっても何度も何度も耐えていくという、そういう1つの執着心でしょうかね。これは絶対いるんですよ。」

ただ、それだけだったら、やっぱり疲れちゃいますんでね、柔らかさというんでしょうか、壁にぶつかった時に『ああ、何とかなるわね』という柔らかい発想も必要だと思います。

ですから、この2つをどう自分でバランスを取っていくかというのが非常に難しいんですけども、それが一番重要な点だと思います。」

## □□ 第3回 Eプラン提案会 提案会実施要項の改定について□□

(改定) 2段階選抜を実施する。

現行の提案会の形式で、2回提案会を実施する。(一次審査→二次審査)

(改定理由)

- ・1回の提案会(発表7分、質疑応答8分)では、生徒の提案内容が伝わらない可能性がある。
- ・質疑応答の時間が短く、納得できるところまで議論が深まっていないという懸念がある。
- ・審査の過程を2段階にすることで、Eプランに挑戦する過程で探究を深めさせる。

一次審査の段階で論点を整理し、二次審査で採択の可否を判定する。

- ・SSH事業は、生徒と教員がともに試行錯誤しながら新たなプログラムを開発する研究開発事業であるため、年度途中においても課題があれば修正して実施する。

(提案会：改訂後)

- ① 一次審査(論点の整理)：企画評価委員のコメントをフィードバック

発表7分 質疑応答8分→変更：質疑応答は、8分を目安とする。

ア 採択→一次審査の段階で採択もあり得る。

イ 条件付き採択→二次審査に進む権利を獲得。

ウ 今回は不採択→次回以降のEプラン提案会で再挑戦

- ② 二次審査：一次審査を通過した提案について、フィードバックした観点に基づいて、審査を行う。

発表7分 質疑応答8分→変更：質疑応答は、8分を目安とする。

ア 採択→提案の実現

イ 今回は不採択→次回以降のEプラン提案会で再挑戦

- ③ 第3回Eプラン提案会の日程・・・日程を定期考査後に変更して実施します。

ア 企画書提案×切 11月29日(金) 16:45まで

イ 一次審査 12月 6日(金) 放課後

ウ 二次審査 12月14日(土) 土曜授業の午後